

地下茎とゆめ 理科誌

4号

S.56
11.16
発行

生活原基「授業」を綴ろう

先日から、少し、身体を悪くして、休養をとり、ただただ、眠る生活がづづいた。生活の贅肉をきりおとした日々を送ってみる。そこにある自分は、食べてねむるをして、学校において「授業」をするのみというなかで、見えてきたことは、教師の仕事とは、実は、原基として「授業」があるのではないかとということである。あまりにも、いろんな位相から言われ、風化した事実とはいえ、「教師の生活原基として“授業”がある」と言えるのではないか。

では、教師にとっては、生活を綴る。ということは、どうということだらう。それは、とりそなおさず、この中核的位置をなす「授業」を綴ることなのではないか。それは、何かまとまった実践録などというものでなく、その一時限の授業、あるいは、ふどそのひと言、それを綴る。そこに、その教師の姿なり、ふどそれが、見えてくるという、そんな回路があるのでは……。大いに「授業」を綴ろう。(勉)

12月5日(土) 例会

福崎高校
「化学」準備室
午後2:00～

変更したのが
まちがわずに

- ・「力」の導入をどうしたか(中1)
- ・化学カイロを作ろう・テルミット反応(高.化)
- ・化学変化の第一歩～分解・化合・燃焼～(中1)

12月19日(土) 学習会

福崎高校
「化学」準備室
午後2:00～

「化学入門」(高橋金三郎著 新生出版)

〈提案〉

冬期合宿研「化学をどう教えるか」

〈わくは ▶12◀を